

新型コロナウイルス感染症（京都市内における先週（10/18～10/24）の状況）

◆先週の特徴など

○概況

飲食を契機とするクラスターについて、積極的疫学調査により、感染経路の追跡を行い、早期の収束が図れたことなどから、先週（10/18～10/24）の新規感染者数は、先々週（10/11～10/17）より△21人（△36.2%）減の37人となりました。

一方、60代以上の感染者は11人（29.7%）となり、先々週の4人（6.9%）から大きく増加しています。また、感染経路不明の新規感染者数が5人（35.7%）増の19人となり、10月に入ってから、3週連続で増加しています。

国の新型コロナウイルス感染症対策アドバイザリーボードにおいては、直近の感染状況を微増傾向としていますが、本市においても、それをうかがわせる状況となっています。

○感染リスクを下げながらお酒や食事を楽しむには

朝晩が冷え込むようになり、体調を崩す方が増えています。

風邪がはやるこれからの季節は、新型コロナウイルスの感染予防にも一層注意が必要となりますが、一方、感染リスクが高い飲酒を伴う会食の機会も増えることが見込まれます。

10月23日開催の国の新型コロナウイルス感染症対策分科会では、とりわけ注意が必要な、感染リスクが高まる「5つの場面」が示されました。

【場面1】 飲酒を伴う懇親会など

【場面2】 大人数や長時間に及ぶ飲食

【場面3】 マスクなしでの会話

【場面4】 狭い空間での共同生活

【場面5】 居場所の切り替わり

クラスター発生につながった事例などを踏まえて、感染リスクがどのように高まるのかを考えてみると、まず、職場では感染防止のための決まりごとをしっかりと守っていても、オフタイムにお酒で気分が高揚すると、感染に気を付けようとする気持ちも緩みがちになり、お酌や箸などの使い回し、近寄って話すといったことも、これまでと変わらずにしてしまうことがあります。また、大勢でお酒を飲むと、どうしても大声になりがちですし、締め切った会場に大人数が詰め込まれるようなこともよくあります。飲食している間は、当然、マスクは着用しませんが、それが二次会や三次会まで、長時間にわたることも珍しくはありません。

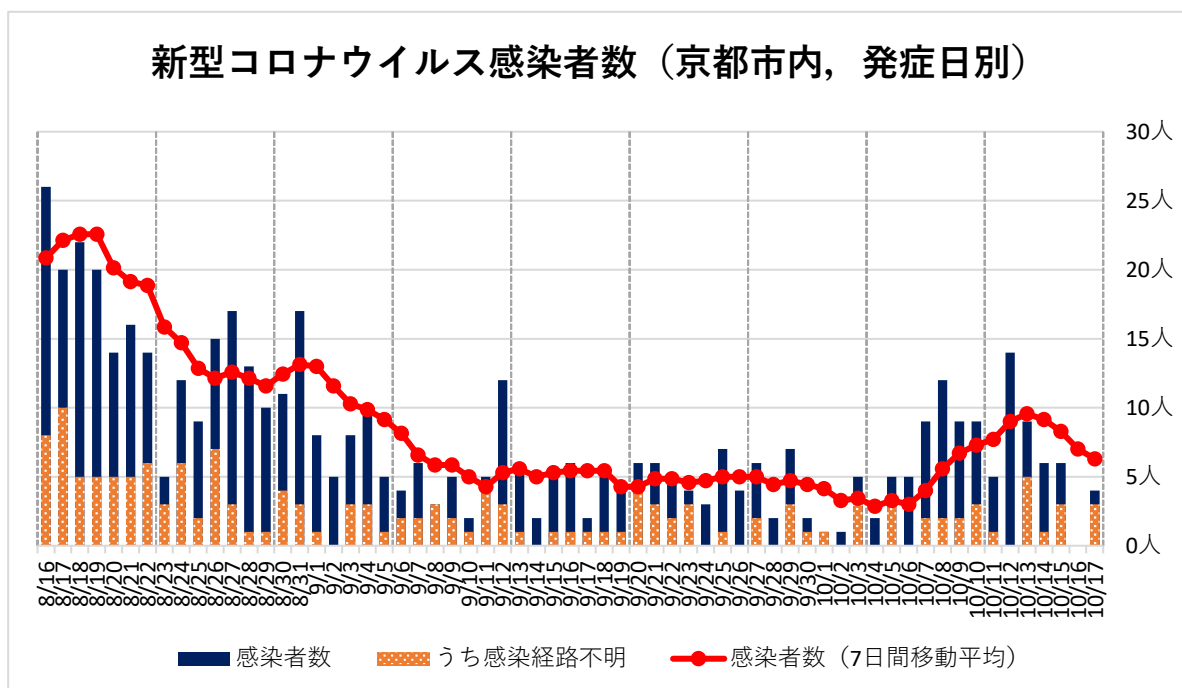
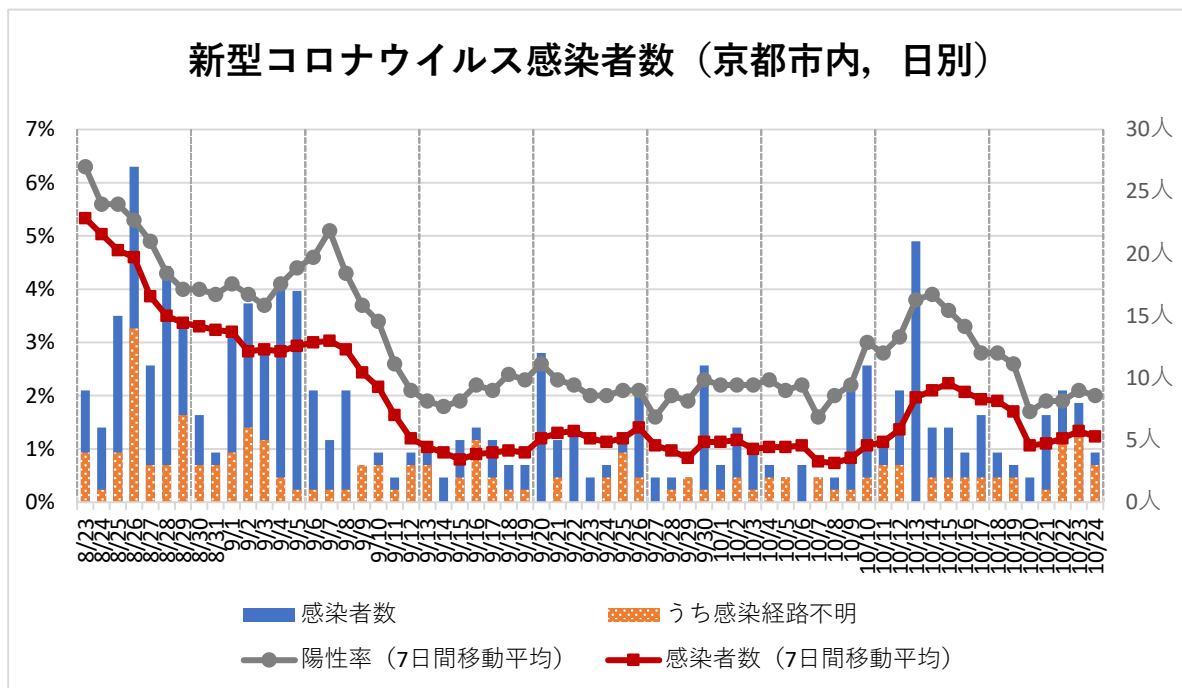
このような感染リスクを下げるためには、例えば、適切に換気が行われているなど、**ガイドラインを遵守したお店を利用し、正面や真横をなるべく避けた配席**とするなどの工夫が必要です。また、お酒を飲むのであれば、**なるべく普段一緒にいる人だけで、長時間にならないよう、はしご酒などを控え、適量を守ってください。**

そして、手洗いやマスクの着用などの徹底により一人ひとりが普段から感染予防に努めること、さらに、何よりも大事なのは、**体調がすぐれないときは、絶対に参加しない**ことです。たった一人の感染者からでも、一度に多数の人が感染し、大きく感染を拡げてしまうクラスターは発生します。

忘年会や親族での新年のお祝いの席などを予定されている方は、「5つの場面」を十分に御理解いただき、感染リスクを下げる工夫をされたうえで、お酒や食事を楽しんでいただきますようお願いいたします。

◆新規感染者数

先週の新規感染者数	37人 前週比△21人	1日当たり平均	5.29人 前週比△3人
感染経路判明	18人 (49%)	10万人当たり新規感染者数/週	2.53人
感染経路不明	19人 (51%)	PCR検査陽性率 (7日間移動平均)	2.0%



◆病床の状況

	10月18日	10月19日	10月20日	10月21日	10月22日	10月23日	10月24日
重症者病床使用率	0.0% (0人/86床)	0.0% (0人/86床)	0.0% (0人/86床)	0.0% (0人/86床)	0.0% (0人/86床)	0.0% (0人/86床)	0.0% (0人/86床)

・療養中患者数（10月24日現在） 71人（前週比△22人）

先週の新規感染者（37人）のうち，検体採取時に「無症状」の方は10人です。

◆感染者の年代

